

東京医科歯科大学医学部附属病院
「みんなの健康を育む病院だより」



オアシス



梅いち輪募金がスタートしました

東京医科歯科大学医学部附属病院は、安全で良質な先進的医療を提供するとともに、「患者さんのオアシス」になることを目指しています。

これにちなんで当院では、「梅いち輪募金」をスタートしました。これは患者さんから寄せられるサービス改善のご要望を、できるところから実現するための募金で、1口1,000円から、郵便局か三菱東京UFJ銀行を通じてお振込みいただけます。募金のご協力者には、感謝状を差し上げるほか、病院ホームページなどでご紹介させていただきます。

「梅いち輪募金」を皆さまに知っていただくために、当院1階に「1年中花を咲かせる梅の木」を設置いたしました。近くにパンフレットなどもご用意しております。当院にお越しの際は、ぜひご覧いただき、当院の患者さまサービス向上のためにご協力ください。

詳しいことは当院総務課 (TEL03-5803-5097) までご連絡ください。

新たに当院1階入り口に設置された「1年中花を咲かせる梅の木」と「梅いち輪募金パンフレット」を持つ木原和徳病院長

INDEX

- 1 梅いち輪募金がスタート
- 2 膠原病・リウマチ先端治療センターに小児科が加わりました
- 2 乳腺外科と放射線治療科による最先端治療について
- 3 心臓カテーテルを用いた検査・治療のご紹介
- 3 糖尿病週末教育入院について
- 3 精神科デイケアについて
- 4 新任科長・部長・センター長からのメッセージ
- 8 寄附金・基金・糖尿病教室
セカンドオピニオン・献体

周産期母子医療センターがスタートしました



乳腺外科と放射線治療科による新しい乳がん治療



乳腺外科での画像診断の様子



心臓カテーテル治療室にて



News

患者さんに役立つ当院の
新しいサービスや
治療法に関するニュースです!

膠原病・リウマチ先端治療センター に小児科が加わりました

この度、難病治療部の膠原病・リウマチ先端治療センターに、我が国屈指の小児膠原病専門医である森雅亮寄附講座教授が参画し、新たに小児科部門が加わりました。

内科と小児科部門では外来診療ばかりでなく入院診療でも密接な連携が始まっており、小児から成人までの膠原病患者さんを一貫してトップレベルで診療できる類まれな治療センターの誕生です。

これまで通り、手術が必要な患者さんには、整形外科やリハビリテーション部が内科や小児科と連携して治療にあたります。

上阪センター長は、「小児科森尾教授の協力の下で4診療部門による盤石の体制が確立でき、より多くの膠原病患者さんにより良い医療を提供できます」と話しています。

なお、森教授の同センター小児膠原病外来は月曜日の午前・午後、水曜日の午後にありますので、新規の患者さんはご紹介状をお持ちになりセンターに予約して下さい。



上阪等センター長と小児膠原病が専門の森雅亮教授



乳腺外科中川先生と放射線治療科 吉村先生による最先端治療 「乳がん切除+マルチカテーテル 小線源療法」

乳がんの治療では、腫瘍摘出手術後に、がんの再発を予防するために、放射線治療を受けることが一般的で、これまでは全乳房放射線治療という、乳房の広い範囲に放射線を照射する治療が約5～6週間行われていました。近年、「部分乳房放射線治療」という腫瘍摘出した部位や、その周辺の乳房細胞のみに照射する治療法が開発され、照射対象を限定することで、肺や心臓などの重要臓器への照射が抑えられるようになりました。

この最先端の治療を当院の乳腺外科と放射線治療科でも受診することが可能になりました。新治療法は「乳がん切除+マルチカテーテル小線源療法」と呼ばれ、がんの病巣を切除後に、乳房内にアプリケーション（写真）を挿入して、がんの病巣周辺の組織にのみ放射線を照射します。アプリケーションの中には、数本のカテーテル（細いチューブ）が入っており、チューブの中にある小線源（ごく小さな粒状の放射性物質）を移動させながら、照射線量を調節することが可能。健康な組織の被ばくを、より少なく防げる上、今まで5～6週間かかった放射線治療が、5日程度で終了します。詳しいことは乳腺外科にご相談ください。



小線源のカテーテルを内蔵したバルーン型のアプリケーション



乳腺外科と放射線治療科による新しい乳がん治療

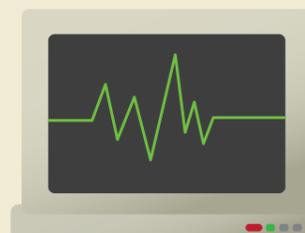
心臓カテーテル検査装置 を導入し検査・手術が スムーズになりました

循環器内科では、今まで1台で運用していた心臓カテーテル検査装置が、平成27年6月より、新たにもう1台増設され、虚血性心疾患、不整脈、弁膜症、先天性心疾患などあらゆる心臓病の検査・治療に重要な役割を果たすカテーテル検査（細い管を用いた検査）や手術の待機期間が短くなり、急性心筋梗塞などの緊急症例にも、余裕をもって対応できるようになりました。

さらに十分に広いスペースが確保でき、モニターも大型化して解像度も改善されたため、従来の手技に加えて、閉塞性肥大型心筋症に対する経皮的中隔心筋焼灼術、大動脈弁狭窄症に対する経皮的大動脈弁形成術、慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対する経皮的肺動脈弁形成術など新たな手技を積極的に進めるようになりました。



地下1階の心臓カテーテル室



糖尿病・内分泌・代謝内科が 週末を利用した教育入院をスタート

「糖尿病といわれたけど、どうしたらよいか?」「教育入院と言われたが忙しくて休めない」「食事の具体的なイメージができない」…こんな方のために、糖尿内分泌代謝内科では、週末を利用した「糖尿病週末教育入院」をスタートしました。

これは、初期または軽度の糖尿病の患者さんを対象に、週末を利用して、糖尿病についての勉強や、糖尿病食の体験、適切な食事を食べながら、1日の血糖値の変化を確認することで、糖尿病の自己管理のための食事・運動療法などを含めた生活習慣改善に役立つ知識を習得することを目的として企画しました。金曜に入院し、日曜午後退院する2泊3日の教育入院です。

ご興味のある方は紹介状をご持参いただき、外来受診の上でご案内します。当院の糖尿病・内分泌・代謝内科に通院中の方は外来主治医へご相談下さい。

精神科デイケアを ご存知ですか?

精神科では「働くための準備がしたい」「規則正しい生活習慣をつけたい」「人付き合いが苦手」「復職までの生活リズムを整えておきたい」という方のために、「デイケア」を行っております。これは話し合い、スポーツ、料理、創作活動などを通じて、ご自分の課題に取り組みながら、ご自分らしく生活することをめざしています。現在、看護師・精神保健福祉士・心理士からなるチームで行っており、デイケア担当医師もいます。詳しいことは精神科にお問い合わせください。



New Face

新任科(部)長・センター長のご紹介

新たに就任した当院の診療科長・診療部長・センター長から
患者さんへのメッセージが届きました。



集中治療部の中沢弘一部長



クオリティ・マネジメント・センターの
伏見清秀センター長



耳鼻咽喉科の堤 剛科長



血液浄化療法部の岡戸丈和部長

医療安全管理部

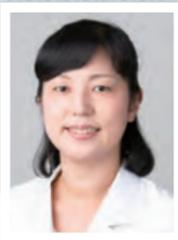


尾林 聡 部長・Satoshi Obayashi
専門分野：産科婦人科学

安全な医療サービスを提供することは大学病院においても最も基本的な要件です。このため医療安全に関する職員の意識啓発をすすめるとともに、医療安全を推進する組織体制を構築していくことが医療安全管理部の役割です。

大学病院では併発症を持った患者さんへの大きな手術、重症度の高い難病、救急を扱うことが多く、医療安全管理部を設けて医療の安全性向上に努めています。医療者と患者さんとの協力のもと、安心して安全な医療を進めていくことを部の目標にしています。

感染制御部



貫井 陽子 部長・Yoko Nukui
専門分野：感染制御学、感染症内科学、臨床微生物学

感染制御部は医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・事務の多職種から構成されており、安全・良質な高度医療の基盤となるチーム活動を日々推進しています。活動内容は手指衛生や経路別感染対策の教育、耐性菌防止対策、抗菌薬適正使用の推進、新興・再興感染症対策など多岐にわたります。各診療科と連携しながら、患者さんが安心して医療をお受けになれる環境を整え、予後の向上につながる活動を今後も進めていきたいと考えています。

クオリティ・マネジメント・センター



伏見 清秀 センター長・Kiyohide Fushimi
専門分野：総合内科専門医、医療政策学、医療管理学、医療情報学

クオリティ・マネジメント・センターでは、院内の診療関連情報を集約し、医療の質保証と病院マネジメント改革のためのエビデンスの提供とPDCA【計画(Plan) 実行(Do) 評価(Check) 改善(Act)】の実践を目指しています。

私たちは、ビッグデータともいわれる医療電子データの分析を充実させながら、当院を受診される患者さんに、よりよい医療を確実に提供できるように貢献したいと考えています。

血液浄化療法部



岡戸 丈和 部長・Tomokazu Okado
専門分野：血液浄化療法、腎臓内科

血液浄化療法は、血中から人体に有害な物質を体外へ除去し、重篤な病態の改善を図る治療法です。最も多い治療疾患は末期腎不全や急性腎障害に対する透析療法であり、その他にも様々な難病疾患などに対して併用されます。血液浄化療法のスペシャリストとして患者さんの病態改善に貢献しております。血液浄化療法部では、患者さんが安心して治療を受けられるよう医師、臨床工学技士、看護師がチームとなって、治療に取り組んでおります。また全国42国立大学病院の中で平成26年の血液透析新規導入件数そして血漿交換件数は全国1位と高い診療実績を誇っております。今後も患者さんの病態や予後そしてQOLの改善に努めてまいります。

耳鼻咽喉科

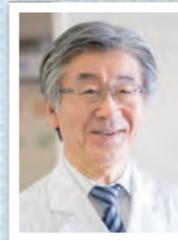


堤 剛 科長・Takeshi Tsutsumi
専門分野：平衡神経科学、耳科学

耳・鼻・口腔・咽頭・喉頭に関わる疾病に最新の医療で対応し、特にめまい・難聴について革新的な専門的診療を実施しています。中耳炎・副鼻腔炎の低侵襲手術に加え、人工内耳や骨固定型補聴器、めまいの手術治療、嚥下障害の治療や音声外科手術にも対応いたします。

リサーチについては、平衡障害の臨床診断・治療の研究と眼球運動解析、重力認知・姿勢制御の研究、遺伝子解析による難聴の病態解析、発生・進化から見た耳疾患の発症病態の解明、実験動物モデルを用いた内耳障害の解析などを行っています。

周産期母子医療センター



久保田 俊郎 センター長・Toshiro Kubota
専門分野：生殖内分泌学、中高年女性医学

平成27年4月より、当施設が地域周産期センターに承認されたため、分娩部から周産期母子医療センターと改称しました。正常妊娠・分娩はもとより合併症妊娠や異常分娩、早産児分娩や、早産児・病的新生児に対して、より質の高い管理・治療を実現します。当院での分娩数は毎年増加し2014年には年間500件を越え、周産期医療スタッフやコメディカルスタッフの医療レベルは高く、LDRやNICUなども充実しております。産科(周産期)医、新生児専門の小児科医、助産師や新生児専門の看護師、臨床心理士、臨床遺伝専門医などがチームを組み、手術部・麻酔科の協力で、ハイレベルな周産期医療を実践します。

集中治療部



中沢 弘一 部長・Koichi Nakazawa
専門分野：集中治療、麻酔

集中治療部では様々な職種のスタッフが連携して人工呼吸、血液浄化、補助循環などを駆使して重症患者さんの治療に当たります。理学療法や栄養指導、精神科リエゾンの介入により患者さんが少しでも早く回復できるように努めます。

高度な医療を少しでも安全かつ楽に受けられるよう24時間体制で監視しております。手術からの回復や病気の治癒に向かって戦っている患者さんを全面的に支えていきたいと思っております。

腫瘍化学療法外科



植竹 宏之 科長・Hiroyuki Uetake
専門分野：大腸癌化学療法、オーダーメイド治療

大腸がんの治療は進歩しました。一方で抗がん剤治療は多様化し、最適な薬剤の選択や投与のタイミング、副作用の治療法が複雑化しています。当科では大腸がんに対する手術と抗がん剤の組み合わせについて、患者さん個々に最適な治療法を選択し効果を最大限にするとともに、副作用を適切に治療します。

現在日本で増え続ける大腸癌に対して、患者さん個々に最適な治療（個別化医療、オーダーメイド医療）を選択し施行しています。大腸・肛門外科と密接に連携し、手術と抗がん剤治療を組み合わせ、患者さん毎に最適な治療法を選択しています。

神経難病先端治療センター



横田 隆徳 センター長・Takanori Yokota
専門分野：神経内科学、神経生理学的検査学、遺伝子治療学

神経難病は、最近の研究の進歩により、疾患によっては有効な治療法も出てきています。当センターでは、複数の診療科が連携し、最先端の治療からリハビリテーション、社会福祉まで専門性の高いトータルなケアをめざしています。

神経難病は根本的治療法がないのが現実ですが、一人一人の患者さんにきめ細かな診療を行います。正確な診断をして、臨床治験や機能向上を重視した手術により、常に一歩先を行くベストの治療を試みています。

大腸・肛門外科診療科長



安野 正道 科長・Masamichi Yasuno
専門分野：大腸・肛門外科疾患全般

私は大腸・肛門外科疾患全般、排便・膀胱性機能を温存する直腸癌手術、高度進行再発大腸癌、骨盤悪性腫瘍手術治療が専門で、家族性腫瘍の遺伝子解析やカウンセリングなど包括的・全人的癌診療にも努めてまいりました。

大腸・肛門外科においては、“専門的かつ、患者さんの社会的家族的な背景まで配慮した包括的な”診療に努めてまいりたいと存じます。大腸癌はもちろん、その他の大腸・肛門疾患でお困りの方がいらっしゃいましたら、お声をかけていただけましたら光栄です。誠実に診療させていただきます。

長寿・健康人生推進センター



石川 欽也 センター長・Kinya Ishikawa
専門分野：人類遺伝学、内科学、神経内科学

当センターの役割は、本学医学部・歯学部両附属病院で展開されている質の高い診療内容に裏付けられた支えられた先端的健診・トータルケアと、個人の遺伝的背景を基にした個別化先制医療の推進です。

当院の質の高い診察・検査法などを用いて、疾患頻度の高いがん、心疾患、脳卒中、糖尿病などについての健診を行い、病気の予防や悪化の防止を目指します。B棟16階に設置され、平成28年度からの運用予定です。

頭頸部外科



朝蔭 孝宏 科長・Takahiro Asakage
専門分野：頭頸部外科、頭蓋底外科

当科は耳鼻咽喉科領域のがんをはじめとした悪性腫瘍に特化した、日本で最初のそして国立大学で唯一の頭頸部外科学講座です。他の病院では治療が難しいと判断された進行がんや難治例に対しても積極的に取り組んでいます。また、早期がんに対しては音声や飲み込みの機能を温存した治療を行っています。多くの診療科と協力して、難治症例に積極的に取り組むとともに、多くの優秀な頭頸部外科医を育成しています。

放射線診断科

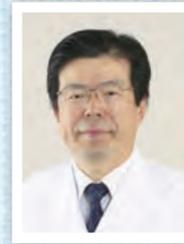


立石 宇貴秀 科長・Ukihide Tateishi
専門分野：画像診断、核医学

放射線診断科では臨床各科と連携しながら画像診断を基盤とした診療を行っています。PET/CT、3テスラMRI、64列マルチスライスCTなどをはじめとして各種の画像診断機器を駆使し適切な画像診断を行っております。また画像ガイド下に行う生検やカテーテル治療（IVR）も積極的に行っています。放射線診断科では最新の画像診断機器を使用し、患者さんにやさしく安全な検査を提供しています。画像診断・核医学検査を速やかに実施し診療が円滑に進むよう願っています。

放射線診断科では医師だけではなく、技師、看護師を含めた大勢のスタッフが皆様の診療をアシストします。

末梢血管外科



井上 芳徳 科長・Yoshinori Inoue
専門分野：血管外科、応用血管外科、移植外科、一般外科

超高齢社会の中で、動脈硬化症が原因となる足の病気が、下肢血行障害が増加しています。当院では、バスキュラーラボを1995年より開設しており、脳と心臓以外のすべての動脈、静脈に対する検査ができます。特に動脈硬化の診断は、痛みを伴わない検査法だけで可能です。2-3種類の無侵襲検査を受けていただくことで、現在の状態を正確に評価でき、さらに今後の治療について検討することが可能です。血管の病気を治せば、人生がよみがえります。

臨床試験管理センター



小池 竜司 センター長・Ryuji Koike
専門分野：膠原病・リウマチ性疾患、感染症、臨床薬理学

当院で行われる治験、臨床試験の調整、CRCによる実施支援を行います。実施計画を包括的に把握し、関連部署や診療科および企業等との間の調整を行い、スムーズに実施できるようにします。

新しい治療法や治験、臨床試験についてのご質問やお問い合わせがあれば、遠慮なくお知らせください。

奨学寄附金のお願い

東京医科歯科大学ではさまざまな病気に対する治療法や治療薬の開発に結び付く研究や、患者さんに信頼される医療人となるための教育を行っています。奨学寄附金は東京医科歯科大学が行っている人材育成や研究活動に対してのご寄附を企業や個人の皆様から募っております。特定の診療科や医師を指定して寄附することも可能で、金額も決まっておりません。寄附金は税制上の優遇措置が講じられます。詳しいことは下記にお問い合わせください。

問い合わせ先

研究・産学連携推進機構事務局 産学連携係
TEL : 03-5803-4927 FAX : 03-5803-0179

東京医科歯科大学基金のお願い

東京医科歯科大学基金は、皆様のご支援により、世界中で活躍する医療人を育み、知と癒しの匠を創造するために、国際交流事業、学生育成奨学事業などの「基金事業」に活用されます。ご寄附は一口1万円で本学で用意した振込用紙にて振り込むことができます。また、税制上の優遇措置が講じられます。詳しいことは下記にお問い合わせください。

問い合わせ先

東京医科歯科大学募金室
TEL : 03-5803-5009 FAX : 03-5803-0273

精神科・心身医療科の予約方法について

精神科・心身医療科の予約に関しては、精神科外来が受け付けております。「紹介状(診療情報提供書)」をお持ちの方で、当院の精神科・心身医療科にご予約(初診予約)を希望する方は、下記にご連絡ください。

問い合わせ先

精神科・心身医療科の予約 精神科外来
TEL : 03-5803-5673 (土日祭日を除く 14:00~17:00)

糖尿病教室のお知らせ

糖尿病患者さんが糖尿病について理解を深め、よりよい血糖コントロールが得られるよう、関連診療科・部門のスタッフと連携して糖尿病教室を開催しています。毎週水曜午後2時からの開催で、4週間で1クールとなっています。当院の患者さん・ご家族の方はどなたでもご自由に参加して頂けます。

セカンドオピニオン外来とは



セカンドオピニオン外来は、当院以外の主治医にかかっている患者さんを対象に、診断内容や治療法に関して、意見・判断を提供し、今後の治療の参考にさせていただくことを目的としています。ご希望の方は、まず現在の主治医と相談の上、セカンドオピニオン外来にお申し込みください。

なお、当院での診療内容に関して、他院でのセカンドオピニオンを希望される方は、担当医にお申し出ください。必要な診療情報提供書や資料をご用意いたします。

問い合わせ先

医療支援課セカンドオピニオン外来受付担当
TEL : 03-5803-4568 FAX : 03-5803-0119

献体のご紹介

献体とは、医学・歯学の大学における解剖学の教育・研究に役立たせるため、自分の遺体を無条件・無報酬で提供することをいいます。自分の死後、遺体を医学・歯学のために役立たいと志した方は、まず最初に生前から献体したい大学や団体に名前を登録しておく必要があります。献体に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

問い合わせ先

東京医科歯科大学献体の会事務局
TEL : 03-5803-5147



院内コンサート

当院では患者さんへ音楽による癒しを提供するために、1階ロビーでボランティアの演奏団体 Musicamente を招いて、Mezz'ora Concert と題するコンサートを開催しています。詳しいことは院内に掲示されますのでご覧ください。



がんレクチャー

「がん」に関する情報を、がん医療に携わる専門スタッフがテーマに基づいてお話しします。事前申し込みは不要、参加費は無料。どなたでも参加できます。

会場 : B棟5階症例検討室

時間 : 13:30 ~ 14:30 (開場 13:15)

今後の予定とテーマ :

- 9月8日 : がんと栄養
- 11月10日 : がんと心
- 2016年1月12日 : がんとしごと、社会とのかわり
- 2016年3月22日 : がんの緩和ケア

晴れた日は

スカイツリーがみえます!



当院の上層階からは、スカイツリーがとてもよく見えます。当院16階にある「オークラカフェ&レストランメディコ」からよく見えるので、ぜひ一度ご覧ください。

東京医科歯科大学医学部附属病院 広報誌「オアシス」8号
発行 東京医科歯科大学医学部附属病院
〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45
東京医科歯科大学医学部附属病院総務課
デザイン・SOYA
編集・宇山恵子
撮影・田山達之

オアシスについてのご意見・ご感想は syomu2.adm@tmd.ac.jp までご連絡ください。本書の無断複写(コピー)は著作権法上での例外を除き、禁じられています。